



広島の里山 歴史と文化のまち 三次を訪ねて

宮本 順子 (英語会員)



平田観光農園

園へ到着しました。少し肌寒い中、最初にリンゴ狩りをしました。この時期の品種は、もっと少ないかと予想していましたが、富士、玉林、陽光など5～6種類ありました。幻の西洋梨「ル レクチエ」の販売もあり、リンゴも通常の半値近くとサービスをしていただき、多くの会員が山盛り購入していました。1杯100円の温かい「しし汁」もあり、“食べ放題のリンゴとは別腹！”とばかりに、皆でフーフー言いながら味わいました。続いて、研修棟にて平田真一社長のお話です。受賞式出席の観光カリスマの克明会長に代わり、ご子息が、なんとリンゴ博士に大変身してユーモアたっぷりに農園について語って下さいました。最後に、藤井会長もイチゴ博士に変身して全員で記念撮影をしました。少し遅めの昼食で、三次ワイナリーへ。和牛バーベキューは、とても柔らかい美味しいお肉がたっぷりで、皆大満足でした。その後奥田元宋・小由女美術館へ。この日は特別企画「竹久夢二展」の最終日でもあり、多くの人で賑わっていました。常設展では、三次市吉舎町出身の日本画家・奥田元宋と人形作家の奥田小由女の作品が展示されています。“元宋の赤”といわれる独特の色彩が本当に見事で、モチーフの「月」とよくマッチしています。また小



奥田元宋・小由女美術館



本卯建

由女夫人の人形は、繊細且つ優美でなんともいえない優しい表情と色遣いが素敵でした。いよいよ最後は、三次本通り商店街へ。三次のシンボルともいえる赤い巴橋を渡るとすぐに「いにしえの里 三次物怪・でこ街道」と呼ばれる石畳の通りが見えてきます。松本玩具店でご主人より三次人形の歴史・いわれについてお話を伺った後、各自で自由散策となりました。「卯建(うだつ)の似合う町」のうたい文句通り、珍しい本卯建や袖卯建を見たり、三次市歴史民俗資料館で開催中の辻村寿三郎人形展を見学しました。商店街で沢山買い物をして、更に最後の買い物を！と、再びワイナリーへ。帰りの車中は、参加者による旅行の感想や近況報告のスピーチタイム。藤井会長からは、楽しいサラリーマン川柳の紹介もありました。参加者の協力と研修旅行グループの努力により、大変有意義な1日となりました。

HIGAの活動報告 (2009年8月～12月)

9月 6日(日)	第2回学習会「広島城へフィールドトリップ～城郭の内外」
9月 6日(日)	IT講座第2回「パワーポイント」
9月 10日(日)	第3回世界史講座「儒学の変遷」
11月 12日(木)	第4回世界史講座「ヨーロッパ文化史～美術中心」
12月 6日(日)	バス研修旅行(三次)「広島の里山の魅力」

2009年度第2回学習会

柳曾 京子(英語会員)



広島城多聞櫓の中で

9月6日「広島城へフィールドトリップ～城郭の内外」というテーマで、第2回学習会が行われ、真夏のような日差しの中、50名が参加しました。

まず、参加者が広島城二の丸表御門に集合し、毛利班・福島班・浅野班の3グループに分かれ、多聞櫓の中でグループ別に、各担当者の方々から交代で説明を聞くという手順。広島城天守閣一層担当の大野典子会員からは主に福島正則について、二層担当の野宮三鈴会員からは城下町の形成、特徴、暮らし、面影等、そして三層担当の宮本順子会員からは馬印、甲冑類、刀剣類の説明がありました。

それぞれ10分という短い時間ながら、簡潔で的確なお話は知的興奮にあふれるものばかり。広島城を理解するとい

うことは、歴史や地理、建築に関わる背景や事象を知り、それらを理解した上で、総合的に捉えなければならぬ大変な仕事であると痛感しました。

続いて、天守閣周辺を歩きながら、被爆樹木、城外観、堀や石垣などについて山田順子会員が詳しく解説。普段あまり立ち寄らない場所で、石組みの仕方や大きな石に彫られた刻印は、教えてもらわなければ気がつかなかった歴史の息吹の数々。それらを肌で感じる事ができたのは貴重な体験でした。

さて、いよいよ最後となる広島城天守閣の見学では、各担当者が参加者に出したクイズに関する場所付近に待機して、質問を受けたり説明をしたりという流れで進行。前半、多聞櫓で十分な説明を受けていたので、展示物の内容がよく理解できたのはいうまでもありません。

詳細な資料の事前配布、歩きながらクイズ問題のヒント出し、学習会後の答え・解説配布等で参加者の興味・関心を喚起し、他の広島城観覧者への配慮も忘れないという担当の方々のご苦勞が忍ばれました。あっという間に2時間が過ぎ、後はこの会で学んだことをどう活かすかがカギとなるのでしょう。

今回の学習会は広島城関係者、学芸員の方々のご厚意と学習会グループ、発表者の熱意ある取り組みの成果であることをご報告申し上げます。



広島城

タクシー・ハイヤー・バス・トラベルは・・・

ISO9001:2000認証取得

つばめ交通株式会社

〒732-006 広島市東区牛田本町4-5-10
配車センター 082-221-1955
<http://www.tsubame.co.jp/>



今、ひろしまの神楽が熱い！

HIGA 事務局長 古谷 章子



10月17日 広島港一万トンバースは熱気に包まれた。接岸したクルーズ船の外国人船客と日本人観客を前に、神楽が上演されたのだ。「やっとこの日が来た」と感慨ひとしおである。私は通訳案内士として、日本各地を船客と同行するが、各地でさまざまな歓迎行事がある。宇和島の牛鬼、鹿児島の大鼓、長崎の幼稚園児による日本舞踊、高校生のバントワリング・ブラスバンド、高松の讃岐うどんのご接待。広島には何もない!! 広島県や広島市の観光関係者に機会あるごとに、そのことを言い続けてかれこ

れ7年、ようやくこの日が来た。司会者が日英で、演目の紹介。カラフルな衣装や、ダイナミックな動きに引きつけられる観客。当日は希望者が神楽の衣装をまとして、写真撮影という特別なプログラムも設けられた。特に印象に残ったのは「土蜘蛛」の蜘蛛の糸が投げられる所。「あの糸は誰がどうやって作るの、すごい」と歓声があがる。

神楽は自然への畏敬の念の表現、苦しい労働の毎日を送る農民のハレの日のエネルギーの発露、人間賛歌だと思う。ストーリーも単純明快。稽古や公演のため力を合わせることは、地域の元気を盛り上げる最高の機会となる。ひろしまの神楽を、まちの魅力として老若男女、世界各国からの来訪者に、熱を込めて紹介していきたい。



「神楽門前湯治村」で宿泊体験しました！

谷本 久美子（英語会員）

去る10月4、5日マニユアルグループ女性陣総勢9名で、美土里町にある神楽門前湯治村での宿泊体験をしてきました。初日は到着後、お食事処で昼食を取り、溝本郁夫社長に村内をご案内頂きました。溝本社長はとて丁寧に美土里町の神楽の歴史や湯治村の設立の経緯などを説明してくださいました。町内にある13の神楽団による神楽定期公演が4月から11月の週末に行われ、発表の場が出来て神楽団の方々の励みになっているとのことでした。見学の後は神楽ドームで神楽の鑑賞をしました。大迫力の公演に大満足した私達は、村内のお宿「里や」で休憩し、その後「ふくすけ」にて十二分な量の夕食を頂きました。午後8時30分からは湯治村の車で、近くの神楽団の練習道場に行き、2時間程練習を見学しました。小さな道場の中では公演を週末に控えた黒瀧神楽団6~7名の人達が一生懸命自分のパートの練習をしておられました。中には生後半年ぐらいの赤ちゃんを連れて夫婦そろって団員というご夫妻の姿もありました。「団員はすべてボランティアなんです。会社員や農業などの仕事を持っていて、夜や休日に練習しているんですよ。」という溝本社長の言葉をふと思い出しました。熱心な練習風景を見ながら、江戸時代から地元で伝承されている神楽を守っていくことへの彼らの誇りを感じました。湯治村へ帰ってからは天然温泉でゆったりしました。翌日朝食の後は、村内のお店で手作りの豆腐や総菜パンなどをどっさり買い込み、湯治村に別れを告げました。



溝本社長を囲んで

今回参加した私達はすっかり神楽に魅了されました。五感で楽しめる伝統芸能—神楽、今度はぜひ外国のお客様をお連れし、その楽しさをお伝えしたいと思いました。



2008年、日仏交流150周年を記念し、両国が作成した観光キャンペーンポスターに厳島神社の大鳥居とモン・サン・ミッシェルが掲載された。その縁で互いに世界遺産に登録された小島を持つ廿日市市とフランスのモン・サン・ミッシェル市が今年5月に観光友好都市提携を結んだ。それにちなんで、柏会員のフランス旅行記と和田会員の宮島レポート（その2）を取り上げる。

ヨーロッパ紀行 ～フランス編～

柏 博子（英語会員）



モン・サン・ミッシェル

今春、次男と2週間のヨーロッパ旅行に出かけた。イタリア、フランス、イギリスを鉄道でめぐる旅。インターネットでホテル、飛行機、鉄道の切符を手配し、計画もないまま成田から飛び立った。珍道中ではあったが、「春のヨーロッパ」を満喫した実に愉快的な旅だった。特に心に残ったのは、「モン・サン・ミッシェル」と「パリの散策」だ。

モン・サン・ミッシェルはフランスの北西部、ノルマンディーに浮かぶ小島。干満の差は15mにも及び、かつては引き潮の時だけ自然にできる陸橋で大陸につながった。周囲1kmの島の岩山に大天使を奉る聖堂が建てられ、大規模な巡礼地となった。時代によって修道院、要塞、牢獄として使われ、今もそのまの形を残す。城壁に沿って大階段を上ると内部には荘厳な教会、礼拝堂、修道僧の居住棟が並ぶ。ロマネスク様式やゴシック様式を取り入れた内陣、天井、列柱廊。壮観なこの建物の中で歴史に翻弄される人々の営みがあったのだろうか？大自然の風雨と潮にさらされながら小高い丘の上に立つその姿と大きさにただただ圧倒された。目の前には大西洋、背後には美しい牧歌風景。自然は変わらない姿でにっこりとほほ笑んでいるようだった。帰路、パリに向かう車窓から眺めたのどかな景色、その夜のフランス料理一至福の一日に酔いしれた。

3月中旬、日曜日のパリ。ノートルダム大聖堂からスタートし、「地図が読める息子」のナビでパリを歩く。幸運にもミサに参加する。教会に響き渡るパイプオルガンの演奏、聖歌隊の歌声、司祭によるお説教（フランス語でさっぱりわからない）。街は散歩を楽しむ人々でいっぱい。セーヌ川沿いの古本市、花市、鳥市を見ながらルーブル方面に進む。スマイル、ラッパ水仙、モクレンの蕾、街はパステルカラーに染まり、小鳥たちがさえずる。どこからかクレープの甘い香り……。カフェでピザを食べる人、パニーニをかじりながら足早に通り過ぎる人……。私達もティータイム。さらにセーヌ川沿いを歩き、広場に出る。凱旋門からシャンゼリゼ通り。若者、家族、老夫婦、みんながゆったりと時を楽しんでいる。パリジェンヌはスカートの使い方が実にうまい。さりげない着こなし、さっそうと歩く姿は憎いほど魅力的だ。「オーシャンゼリゼ♪」息子と歌いながらオシャレな通りを歩く。体もふわりと舞い上がる。やがて、大使館通りを抜けエッフェル塔の展望台へ。115mほどの高さだが、フランスが低く足がすくむ。遠くなだらかな丘の手前にパリの街が広がる。気ままに歩いたパリの一日。子供の頃「花のパリ」と憧れた街は私達をあたたく迎えてくれた。



焼きがきにこだわって六十年
宮島一の創業を誇る

<http://www.yakigaki-no-hayashi.co.jp/>

焼がきの
はやし



● 宮島レポート (その2)

和田 真美恵 (英語会員)

今回は、宮島の伝統産業が一目でわかり、宮島名物づくりを体験できる宮島伝統産業会館と、エコで人にやさしい宮島航路フェリーをご紹介します。

[宮島伝統産業会館(みやじまん工房)]

「もみじ饅頭手焼き体験」「杓子づくり体験」ができるという、リニューアル後の宮島伝統産業会館。宮島栈橋のすぐ向かい側左手にあります。一階のフロアには、最高級の杓子、ろくろ細工、宮島彫り等の伝統工芸品が一同に展示され思わず目を見張ります。英語の説明も併記され、外国人の方に宮島の伝統工芸を堪能して頂くのにも最適です。体験講習は原則5人以上で1週間前に予約が必要ですが、予約なしでも当日体験講習を実施していれば参加もできるそうです。私が訪れた日も5人の大学生グループが3階の木工室で杓子づくりに挑んでいました。早速、飛び入りで、”MY 杓子” 作りに参加しました。

材料の木は4種類。杓子の形にカットしてあります。地元の木工所から派遣された講師の方が、それぞれの木の特徴を説明して下さいます。自分の好みの材料を選び、表面を磨き、鳥居やもみじの焼印の模様を入れます。丁寧な実技指導だけでなく、学生からの「なぜ宮島で杓子作りが始まったの?」「“しゃもじ”の呼び名の由来は?」などの質問にも、熱心に答えて下さいました。海外の学生グループも、この体験をよく利用されているそうです。次は是非、もみじ饅頭の手焼きも体験してみたいと思いました。

[2006年就航のJR西日本の最新型宮島航路フェリー：みやじま丸]



屋上デッキをずっと利用していましたが、ふと気がつくとも1階はバリアフリールームでした。広々と明るく、10人位が横並びにくつろいで座れるベンチシートに、宮島側のパノラマが楽しめる窓側の席、車椅子用のスペースも3箇所。合計で34席。大きな荷物を抱えて移動されるお客様にも便利です。バリアフリートイレもあります。この「みやじま丸」、環境にやさしい日本初の小型電機推進フェリーとか。そういえば、心なしか船内のエンジン音が静かでした。海外のお客様にも、ちょっとアピールしたくなるようなフェリーです。

いつ行っても懐かしさと共に新たな発見のある宮島。日本の縮図とも言われる宮島の魅力に、今後も多くの人に触れていただきたいと思います。

宮島銘菓
大正十四年創業



宮島 藤い屋

広島県廿日市市宮島町 1129
TEL (0829) 44-2221
<http://www.fujiiya.co.jp>



直売店
宮島本店・広島駅アッセ店・広島駅新幹線
名店街店・そごう広島店・そごう呉店・天
満屋アルパーク店・広島空港天満屋店・広
島駅前福屋店・呉駅クレスト店・駅売店
kiosk



広島平和記念公園対岸。元安橋たもとのオープンカフェ

本格イタリアンが味わえる店

Caffè Ponte
カフェ ポンテ

【住 所】広島市中区大手町1丁目9-21
【予約専用電話】070-5679-9134
【営業時間】7:30~22:00 年中無休

文化講演会のお知らせ

本年度のHIGA文化講演会は、当協会の常任理事・事務局長であり、ガイド歴30年の古谷章子（ふるたに あきこ）氏に「日本のここが面白い！～通訳ガイドよもやま話～」という演題で講演していただきます。

古谷氏は長年にわたるガイド活動と国際交流に貢献されたことに対して、2008年「中国運輸局長賞」を受賞されました。JTB専属ガイドとして年間およそ120日稼働というご自身の豊富な経験を通して、通訳ガイドの難しさや楽しさ、そしてその極意を日本の美しい風物写真とともにお話しいただく予定です。多数の皆様のご参加をお待ちしています。



記

演 題：「日本のここが面白い！～通訳ガイドよもやま話～」
日 時：2010年2月20日(土) 13:30～15:30
場 所：アステールプラザ7階研修室（広島市中区加古町4-17）
主 催：ひろしま通訳・ガイド協会
定 員：100名（要予約）
参加費：無料
ご予約・お問合せ先：ひろしま通訳・ガイド協会事務局

【ご協力ありがとうございます】

HIGA 賛助会員ご入会の皆様（2009年12月現在、順不同、敬称略）

団体会員

広島紅葉ライオンズクラブ
広島商工会議所
JTB 協定旅館ホテル連盟広島支部
つばめ交通(株)
(有)はやし
(株)オムエル
広島トヨペット(株)
(株)藤い屋
(社)広島県観光連盟
カフェ ポンテ
藤井循環器内科

個人会員

市川 太一	くらわんか	山本 光子
河井 克行	藤井 倫子	海生 直人
延本 真栄子	先花 智恵子	三段峡ホテル
清水 考子	森田 穣代	龍山 壬生子
田島 謙治	小辻 一洋	ぎゃらりい宮郷
畑 博行	花やしき	河井 あんり
ことば工房	古谷 敏明	三上 貴教
藤達 義明		

賛助会員としてご協力くださる団体、個人の方を募集しています。ぜひこの機会にご入会をご検討くださるようお願い致します。年会費は一口につき団体会員2万円、個人会員5千円です。団体会員には、HIGA ニュースに広告掲載の特典があります。お申し込み、お問い合わせは、当協会事務局 082-245-8346(月～金、11～16時)まで。

本紙へのご感想・ご意見をお寄せください。HIGA 事務局へ郵便・電話・FAXまたはEメールでどうぞ。

Eメール：higa@urban.ne.jp ホームページ：http://www.j-higa.net

 **藤井循環器内科**

英語対応

宇品3丁目電停前

診療科目 ▶ 内科: 循環器・消化器(胃カメラ)・呼吸器, 放射線科(マルチスライスCT)

〒734-0004 広島市南区宇品神田2-14-24

☎(082)252-0133